

# 保護者を対象とした 子どもの病気に関する学習サイトの提案

澤木 恵、岩澤 まり子  
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科

## 1. 研究の背景および目的

保護者は、子どもの病気に関する知識を、検診や医療機関の受診の際などに獲得している。携帯電話からこれらの知識にアクセスすることができれば、いつでも、どこでも学ぶことができるようになり、利便性が高まると考えられる。

本研究の目的は、家庭において体調のすぐれない子どもの医療機関受診の緊急性の判断およびとっさの対処ができるようになるために、携帯電話からアクセスできる、保護者を対象とした子どもの病気に関する学習サイトを提案する。

## 2. 研究の方法

本研究では、茨城県と茨城県小児救急医療協議会により作成された「子どもの救急ってどんなとき？」<sup>1)</sup>から子どもの病気に関する情報を抽出・再構成し、携帯電話で利用可能な保護者を対象とした子どもの病気に関する学習サイトを作成した。

## 3. 子どもの病気に関する学習サイト

- ・ **情報の抽出**：「主な症状別の対処法」より、熱を出した時、せき・息が苦しい時、下痢をした時、嘔吐をした時、おなかが痛い時、けいれんを起こした時、の6症状を対象に、「観察のポイント」「ワンポイントアドバイス」「受診の目安」「Q&A」の各項目の記述内容を抽出した。
- ・ **情報の再構成**：抽出した情報を、「発生の機序または症状の概要」「観察のポイント」「受診の目安」「水分補給」「対処」「食事」「注意」「入浴」の8つの情報項目に整理し、再構成した。これは、項目名を具体化することで、利用者がピンポイントで必要な情報を入手できるようにするためである。
- ・ **携帯サイトの開発**：携帯サイトは、webサーバ、サーバサイドスクリプト、HTMLを組み合わせて構築した。トップページから症状の一覧へ、症状の一覧から各情報項目へと遷移する2段階の構成により、利用者を各症状への対処法へと導くようにした。

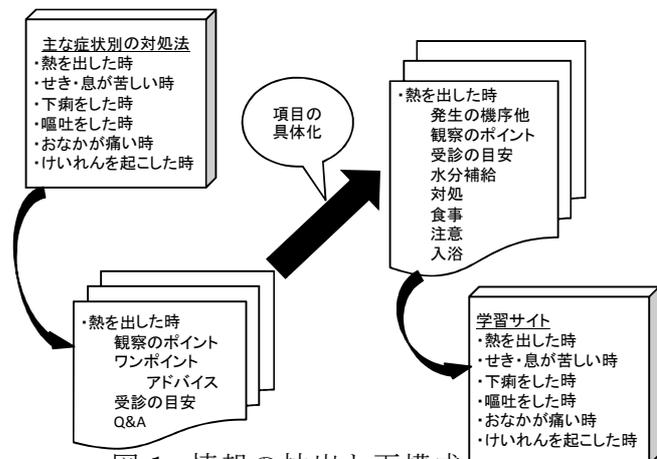


図1. 情報の抽出と再構成

## 参考文献

- 1) 茨城県・茨城県小児救急医療協議会. “子どもの救急ってどんなとき?”. 茨城県救急医療情報システム. <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/kodomobook.pdf>, (参照2011-01-06)